

寄稿

これからの森林組合活動について

宮崎県南那珂森林組合
副組合長 島田俊光

宮崎県南部地域は、農業、漁業が盛んな地域であり、林業は副次的なものとなっています。そうしたことから、当地域では、林業には不利な条件も多いのですが、逆に農林漁業が団結できる側面もあります。

例えば、平成五年に漁業関係者の協力により「漁民の森」を造成しました。当時、漁協が直接契約した植林事業は全国初だったこともあって、大きな話題となりました。



一方、農業との協力も進んでいます。具体的には、二年前から「さんさん米」と名づけた稲作に取り組み始め、昨年ようやく店頭販売できるようになりました。「健全な森林からの湧き水を利用した米はこんなにもおいしいですよ」と言った食材づくりを進めています。これは、

では、二・七haの森林を経済林と環境林に区分し、八〇年の契約を結んでいます。経済林では、条件の良い林地を対象に杉を植栽し、一度四〇年後に伐採および再植した後、八〇年後には二度目の伐採を行い、再契約して再植することを条件としています。実際の植栽活動では、漁業関係者が、山の中で植林し、さらにメシを食べたことは初めてだと言いながら、谷間になびく大

漁旗を見て感動されていたことを未だに忘れることができます。また、漁協婦人部は、参加者一五〇人の味噌汁にとぎりめしの準備に朝早くから追われて、大変だったと思います。このように串間市漁協は、森林の良き理解者であると感謝しております。そして、「漁民の森」のような異業種との連携による森林をいくつも造成することにより、厳しさを増す中山間地域に活性化を図りたいと思います。

農協と協議中です。近い将来、「農協の森」造成に取り組んでもらうためにも、水の大切さを訴えたいのです。そして、さらに中山間地域の活性化を図るためには、地方の豊かさを都市部の方達に知っていただき、都市部の組合と連携し、「安心と安全」をつけて地方の特産物を直送販売する。そこで、森林の大切さと必要性をアピールするべきだと思っています。

そして、今後、森林組合は、森林を守り育てると同時に、森林の大切さや必要性を少しでも市民に知っていただくために、様々なイベントに参加しPRを進め、また異業種間の交流を図りながら、森林の理解者を増やすことが大切であると思います。実際、環境林と経済林に区分した森林施業や循環型林業の必要性および環境林整備についてのもその大切さが理解されていないことが多いと思います。

山村に活性化を進めることは難しい状況ですが、交流人口を増やし、一時的に山村を訪れてその山村の豊かな空間を味わい、また都市部で働いて、そして再度山村に来るといった「交流社会」も良いのではないかと企画しているところです。地域全体が協同性を失わず、相互努力によって循環型社会を構築することで、安心して生活できる豊かな社会が出来るのではないのでしょうか。こうしたことから、私共はいろんな森を今後造成して行く予定です。